

高齢者の自主グループ活動の推進に向けた要因の把握に関する研究

介護予防マネジメントコース

5007A326-4 橋口博行

研究指導教員： 岡浩一郎准教授

【背景】

高齢化が急速に進むわが国では、独居高齢者の増加、地域社会との関係性の希薄化などが深刻な社会問題となりつつある。そのため、長期にわたる高齢期を健やかで充実した生活を送ることができるよう社会をいかに構築していくかが求められている。

住民主体のグループ活動は、個人が主体的に健康づくりに取り組むことができる方法の1つである。一人ひとりが稔り豊かで満足できる人生を全うできるようにし、併せて持続可能な社会の実現を図るヘルスプロモーション推進という観点からも極めて重要である。特に、地域高齢者のグループ活動は、高齢者の社会的役割を保つ仕組みの一部として、また健康づくりへの意識向上が図れる仕組みとして意義があり、高齢化社会における施策の効果的な手段の1つと考えられる。これまで地域のボランティアや健康づくりを行うグループの研究は、活動の意義や必要性の認識は徐々に進んできているものの、地域展開をどのように支援していくべきかの方法については、未だ十分な検討がされていない。

本研究の目的は、自主グループで活動している人々の視点や活動の意味を捉え、高齢者が中心に活動している健康増進(介護予防)を目的とした自主グループが、地域へ発展する要因を把握し、その支援方法の手がかりを得ることを目的とした。

【方法】

研究デザインは、帰納的アプローチによる質的記述的研究を用いた。調査方法は、フォーカス・グループインタビューを採用した。調査協力者は、都内H市Iグループで活動する自主グループ(会員400名)の内、創設時から現在も継続して参加している者、又は運営に携わっている者9名(平均年齢67.11歳)であった。インタビュー内容は、①グループ創設のきっかけ、

②目標設定に至った経緯、③グループ外のサポート、④グループを継続する理由、⑤グループ活動が地域に及ぼす影響の5項目であった。

【結果】

分析の結果、グループ活動が地域に発展する段階として、図に示すような37の重要アイテム、18の小カテゴリー、4つの中カテゴリー、4つの大カテゴリーが抽出された。高齢者が中心に活動している健康増進(介護予防)を目的とした自主グループが地域へ発展するためには、【協働による地域課題の明確化と共有】【協働による計画】【課題解決のための住民組織づくり】【安心やりがいの場の形成】4つの段階を経ることが明らかとなり。また、要因として、各段階の意識状態と支援方法が特徴として示された。

【考察】

地域には、自治会、町内会、地区組織、班など地域のさまざまな組織、住民のボランティアサークルや団体などがあると考えられる。

本研究で示された高齢者が中心に活動している健康増進(介護予防)を目的とした自主グループが、地域に発展するための要因として、4つの段階を経ること示された。地域の課題を把握し、住民と行政が共に計画を作り、課題解決のための組織の形成、評価といった段階を捉えることが重要であることが考えられる。

グループが地域へ発展する各段階の特徴として、問題意識・協働意識、住民主体の意識、主体的意識・自主的意識、コミュニティ意識・仲間意識が示された。その支援方法としては、グループ及びメンバーの意識変化を考慮した適時(タイムリー)な支援が重要であることが考えられる。

組織の発展段階の要因一覧

